

防音マット MT0003

施工要領

前田木材株式会社

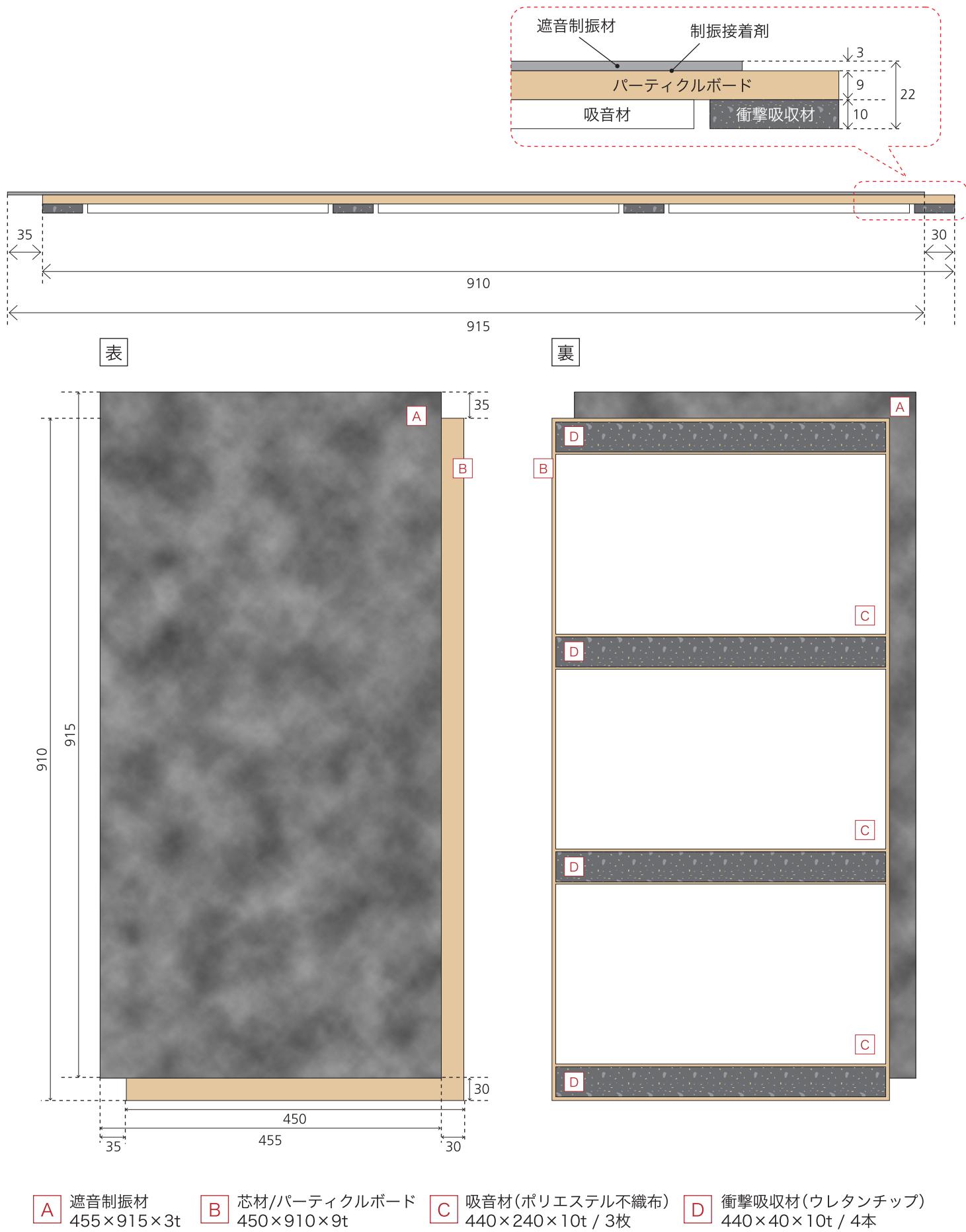
〒573-0082 大阪府枚方市茄子作東町41番1号

TEL.072-854-0110 FAX.072-853-3319

e-mail : info@maedamokuzai.com

www.maedamokuzai.com

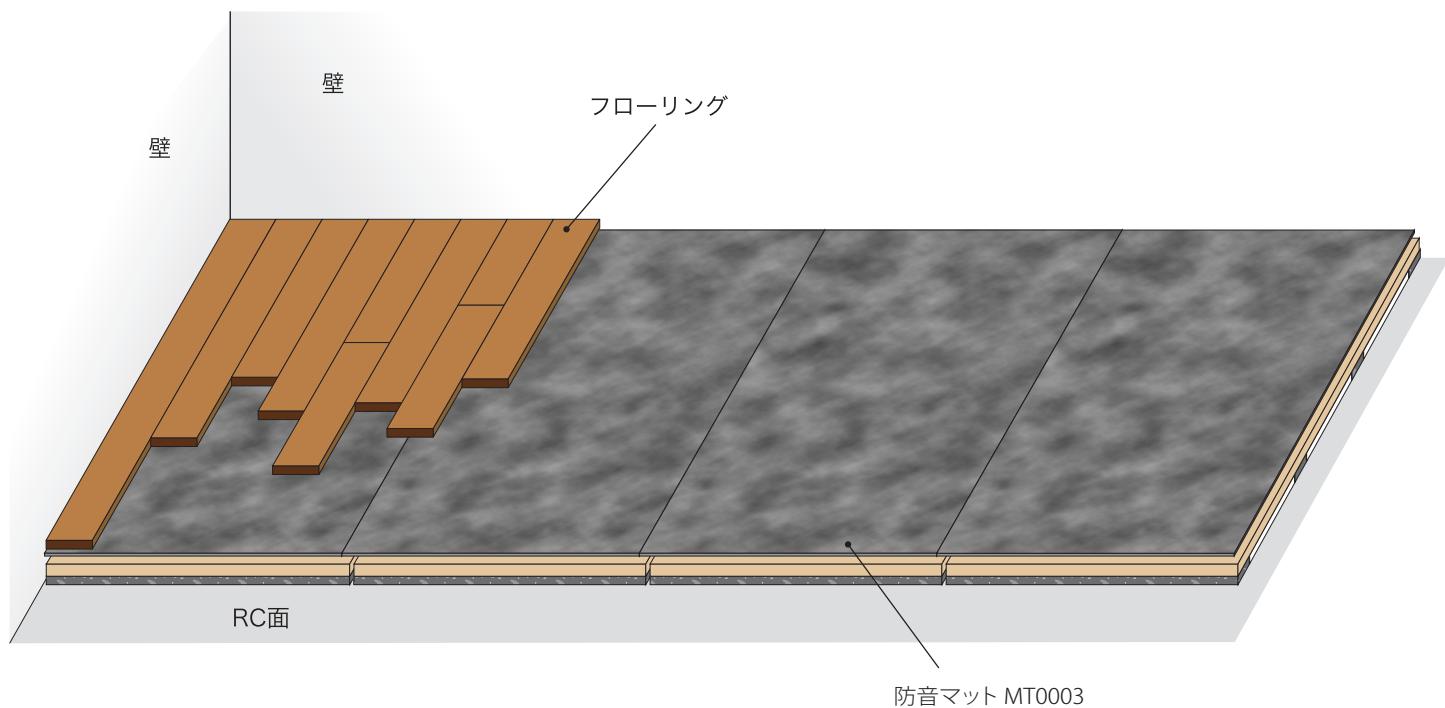
断面図・平面図



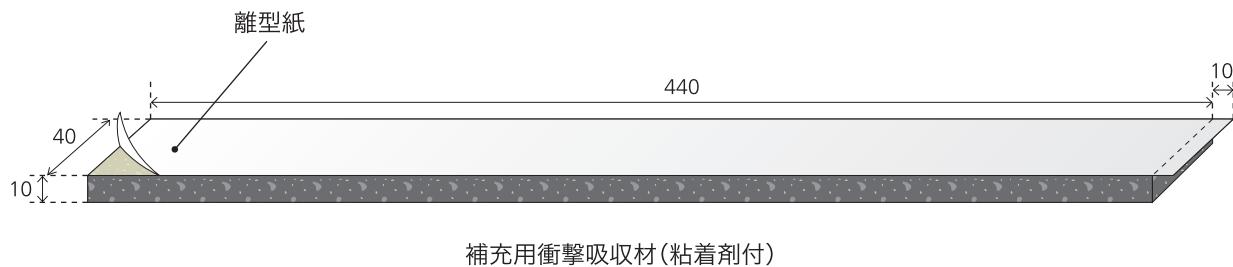
施工要領 01 施工の準備

1-1 RC面を綺麗にお掃除します。必要であればセルフレベリング(不陸調整)をしてください。

1-2 防音マットMT0003(以下「防音マット」と表記)の敷き込み方向を決めます。



1-3 (2-4)・(2-5)の作業に必要となる補充用衝撃吸収材(別売)を、必要量ご用意ください。



1-4 防音マットは、 $300\text{kg}/\text{m}^2$ までの荷重に耐えられます。

しかし、 $300\text{kg}/\text{m}^2$ 以上の荷重がかかった場合、その部分が沈む可能性があります。

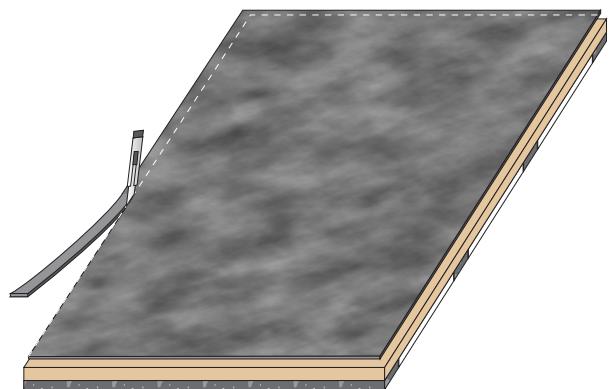
ピアノ等特別な荷重が予想できる部分には、(2-6)の作業を行います。

この作業に必要なベニヤ(衝撃吸収材と同サイズ: $440\text{mm} \times 40\text{mm} \times 10\text{t}$)をあらかじめご用意ください。

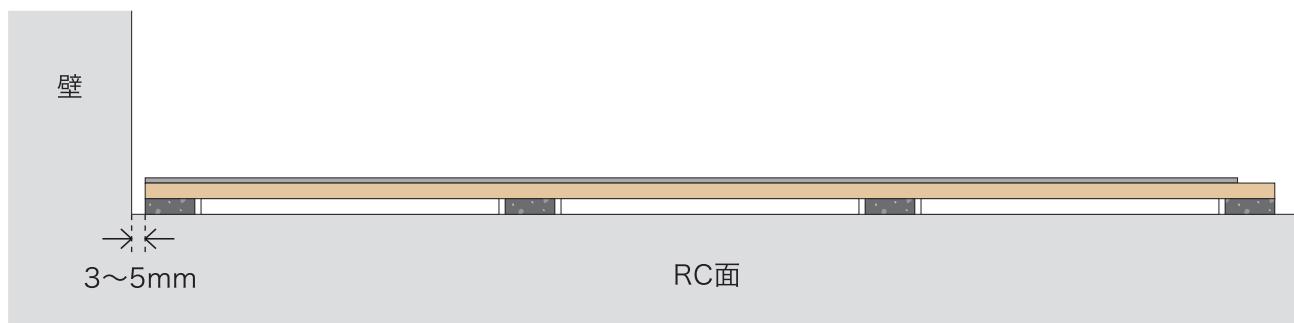
施工要領 02 防音マットの敷き詰め

2-1 敷き始めの壁に接する部分のゴムは、芯材のパーティクルボードに沿ってカットしてください。

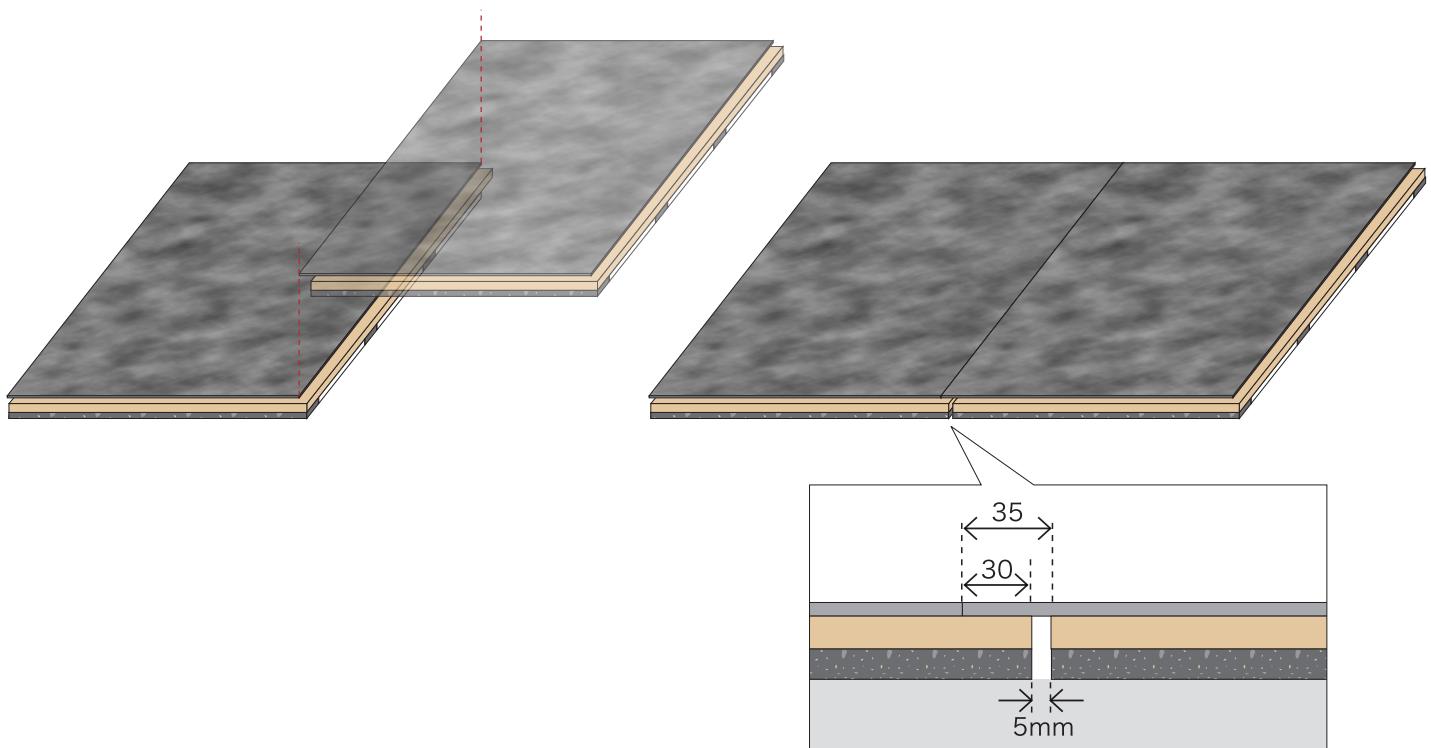
注 カットしたゴムは、後ほど使用する可能性があります。
施工が完了するまで保管してください。



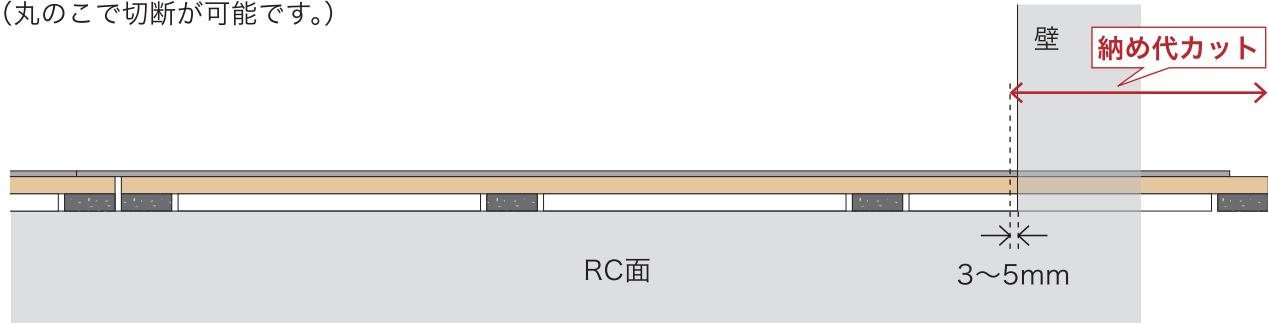
2-2 敷き込みは壁基準とし、壁面より3~5mm隙間を取ります。



2-3 ゴム面を上にして、敷き詰めていきます。ゴム部は突きつけになるように施工してください。
パーティクルボード間には5mmの隙間ができます。

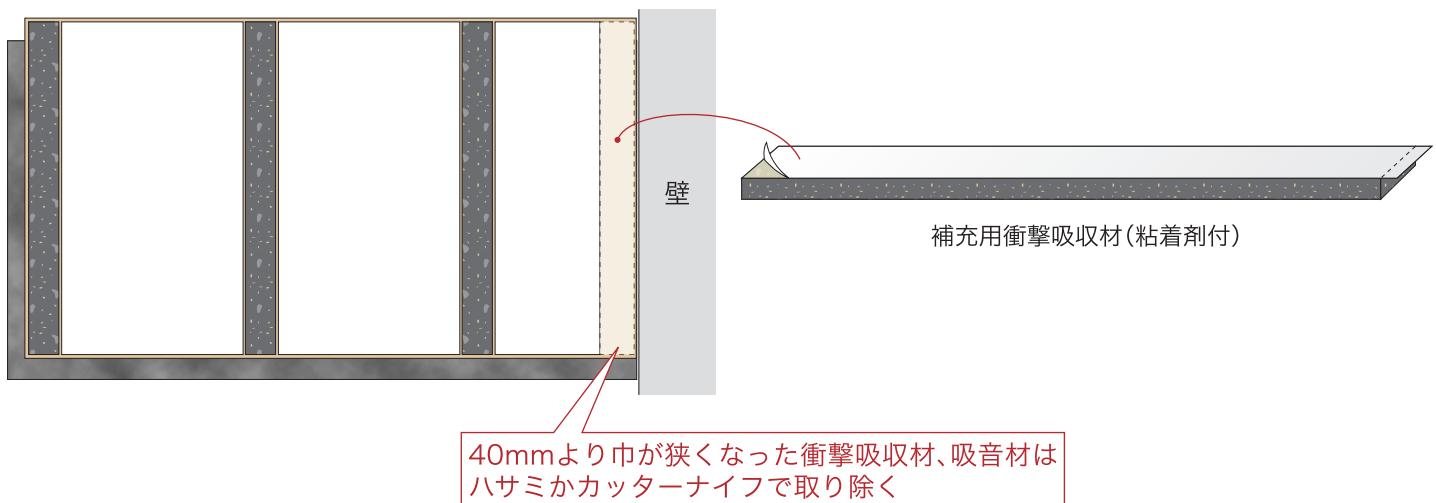


2-4 敷き詰めていって壁まできたら、壁際に敷くマットは、壁面より3~5mm隙間ができるようカットします。
(丸のこで切断が可能です。)

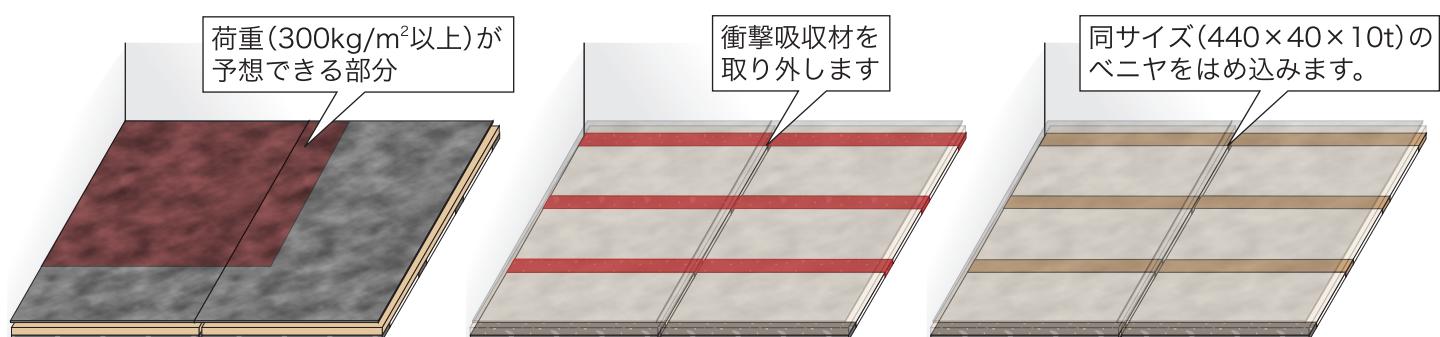


2-5 防音マットの両端は、40mm巾の衝撃吸収材でなければなりません。

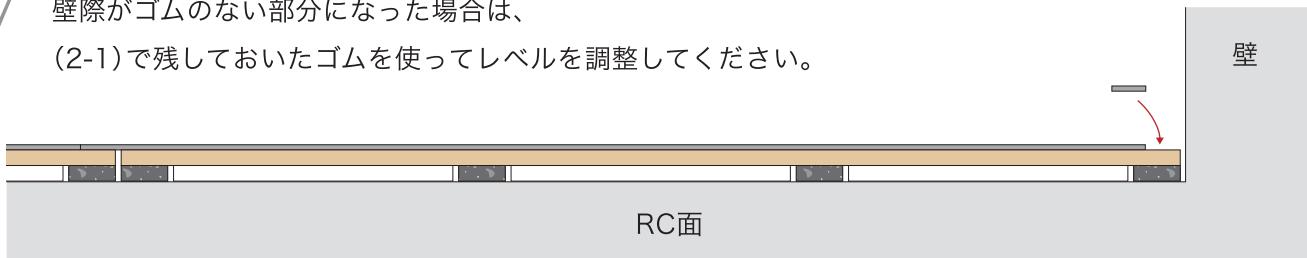
(2-4)で納め代をカットすることにより、端が40mm巾の衝撃吸収材にならない場合は、
補充用衝撃吸収材(粘着剤付)を貼り付けてください。



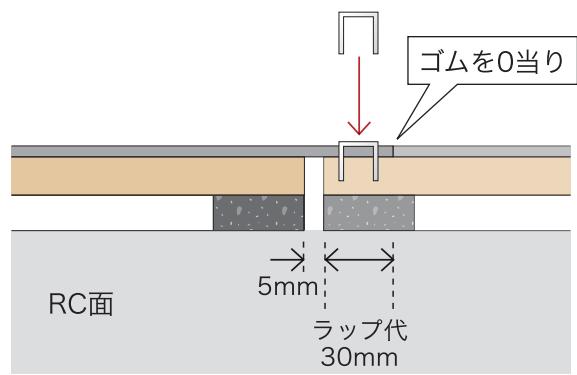
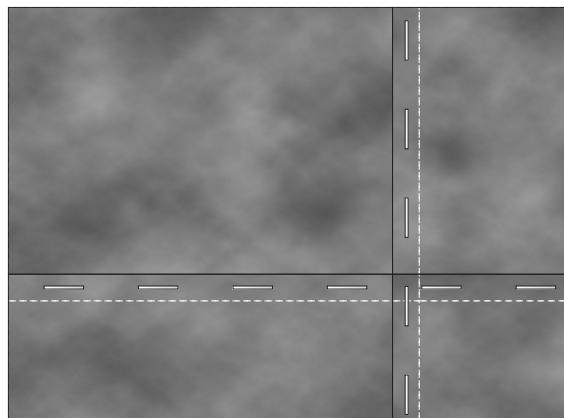
2-6 ピアノ等特別な荷重(300kg/m^2 以上)が予想できる部分は、衝撃吸収材をはずし、空いた所に
同サイズ($440\times 40\times 10\text{t}$)のベニヤをはめ込みます。



2-7 壁際がゴムのない部分になった場合は、
(2-1)で残しておいたゴムを使ってレベルを調整してください。



2-8 パーティクルボードと重なったゴム部に約15cm間隔でタッカーを打ち付け、しっかりと固定しましょう。



施工要領 03 フローリングの施工

全面に防音マットが敷き詰まった事、タッカー止めが完了していることをご確認ください。

表面をお掃除した後、フローリングを施工説明書に従って施工してください。

このとき、フローリングは防音マットと直交方向に施工する事にご注意ください。

